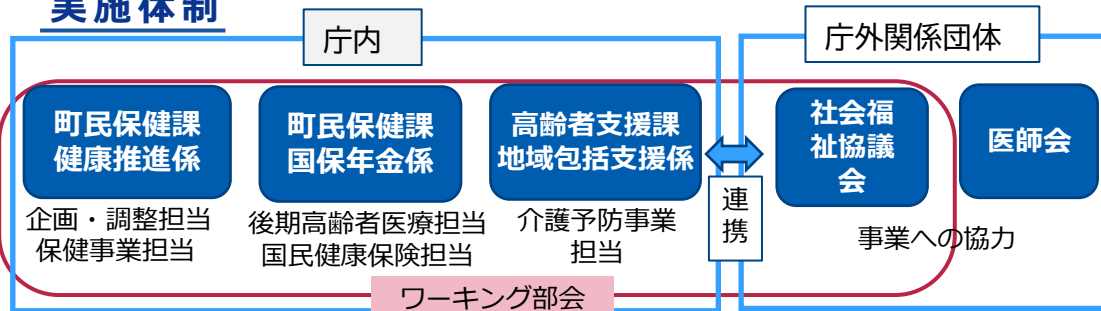


# 宮崎県三股町 —みんな元気 ずっと元気 笑顔いっぱいのまちを目指して—

## 町の概況(令和7年4月1日時点)

人口	25,586人
高齢化率	29.04%
後期被保険者数	3,854人
日常生活圏域数	1 圏域

## 実施体制



三股町公式キャラクター『じゃんかん君』

## 取組の経緯

- 三股町の患者1人当たりの医療費は国・県より高く、特に糖尿病の脳血管疾患率は県平均を上回っていた。一人当たりの介護給付費も県平均より高い状況であった。
- 有病状況については糖尿病、脳血管疾患で国・県より高い状況だった。そこで、糖尿病や糖尿病性腎症及び脳血管疾患の重症化を予防し、新規透析患者を増やさないことを目的として保健事業を実施することとなった。

## 企画調整・関係機関との連携

- 町内連携  
町内3係(健康推進係、国保年金係、地域包括支援係)と社会福祉協議会にて、年3回のワーキング部会を開催し、医療費の現状や健康課題の共有、事業計画や実施内容・方法の検討を行っている。また、ハイリスクケースの情報共有し、必要時、同行訪問を行っている。
- 医療関係団体等との連携  
医師会には、健診事業前の説明会時に、ハイリスクアプローチ事業の内容について周知している。また、糖尿病性腎症の重症化予防に関しては、かかりつけ医との連携票(重症化予防連絡票)を作成し、対象者の治療状況及び保健指導の内容が相互で把握できる仕組みを構築している。

## ハイリスクアプローチ

- 糖尿病性腎症重症化予防  
健診結果より対象者を抽出し、必要に応じて重症化予防連絡票を本人が医療機関に渡し、医師会経由で町に返却してもらい、治療方針等を共有する。
- 低栄養予防  
健診結果よりBMI18以下かつ前年度より3kg以上減少している者を対象とし、管理栄養士が栄養指導を実施。
- 口腔  
一体的実施KDB活用支援ツールにて抽出された者のうち、広域連合実施の歯科健診対象者となる76歳または81歳(他5項目に該当)に対し、保健師と言語聴覚士が対象者宅に訪問し、歯科健診の受診勧奨と保健指導を実施。
- 重複投薬・多剤投与等  
保健師が対象者宅に訪問し、保健指導を実施。
- 健康状態不明者対策  
保健師が対象者宅に訪問し、受診勧奨と健康状態の把握を実施。
- 重症化予防(その他の生活習慣病) 脳血管疾患予防対策  
保健師が対象者宅に訪問し、保健指導を実施。

## ポピュレーションアプローチ

- 健康教育・健康相談  
集団健診会場及び個別健診の結果返却時(結果に案内を同封)に健康教室の案内を行い、健診結果の説明とフレイル予防の講話を実施する。  
その他、サロン等の集いの場へ、管理栄養士や保健師が出向き、個別相談や健康教育を実施している。
- フレイル予防の普及啓発活動  
健診結果にフレイル等のリーフレットを同封して送付している。また、集いの場で保健師や管理栄養士がフレイル予防の講話を実施している。



写真はR7フレイルフェスタの様子

# 宮崎県三股町

## 事業結果と評価概要（令和6年度結果）

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	低栄養	7人	7人	・支援できた人の数 ・次年度健診での改善率	・7人（100%）訪問5人 電話1人 手紙1人 ・3人（42.9%）1人は未受診 2人は世界
	口腔	18人	13人	・支援できた人の数 ・介入後、歯科受診した割合 ・質問票④⑤の改善率	・13人（72.2%）うち1人は電話 ・8人（61.5%） ・改善：3人（16.7%）悪化：5人（27.8%） 変化なし：6人（33.3%）健診未受診：4人（22.2%）
	重症化予防 （糖尿病性腎症）	10人	10人	・面談実施率 ・次年度健診での改善率	・10人（100%） ・3人（30%）
	重症化予防 （その他の生活習慣病）	54人	54人	・面談実施率 ・次年度健診での改善率	・54人（100%） ・31人（57.4%）
	服薬 （重複投薬・多剤投与）	3人	3人	・介入後、処方薬剤が20剤以下になった者の割合	・1人（33.3%）
	健康状態不明者対策	44人	43人	・訪問実施率 ・健診受診した人数	・43人（97.7%） ・7人（16.3%）、21人は医療機関受診（48.8%）
ポピュレーションアプローチ	健康教育・健康相談	-	13か所 124人	・参加者数 ・伝達内容の満足度	・124人 ・アンケート結果 とても満足・まあ満足（95.4%） 難聴で話が聞き取れず「不満」と回答した人がいた。
	気軽に相談できる環境づくり	-	16か所 1,555人	・チラシ配布数	・1,555枚 健診結果にフレイルに関するリーフレットと健康教室案内を同封した。健診結果説明の時などに個別相談も実施した。（個別相談：57人）

・ハイリスクアプローチに関しては、当該年度の情報（健診結果）を活用することで、より対象者に合わせた支援を実施している。  
 ・関係機関との顔が見える関係、相談しやすい関係が構築されつつある。令和7年度はワーキング部会で「フレイルフェスタ」を企画・運営し、体験型の催し等も実施することができた。

### 課題・今後の展望

- ・ポピュレーションアプローチでは健康教育を実施する集いの場の実施場所の増加と、高齢者が楽しくフレイル予防に取り組める事業を展開していく。
- ・ハイリスクアプローチでは、難聴などによりコミュニケーションが取りにくい住民への対応をどのようにしたらよいか検討する。
- ・ICTの活用が不十分であるため、他自治体等の取組事例等を参考にしながら今後強化していきたい。